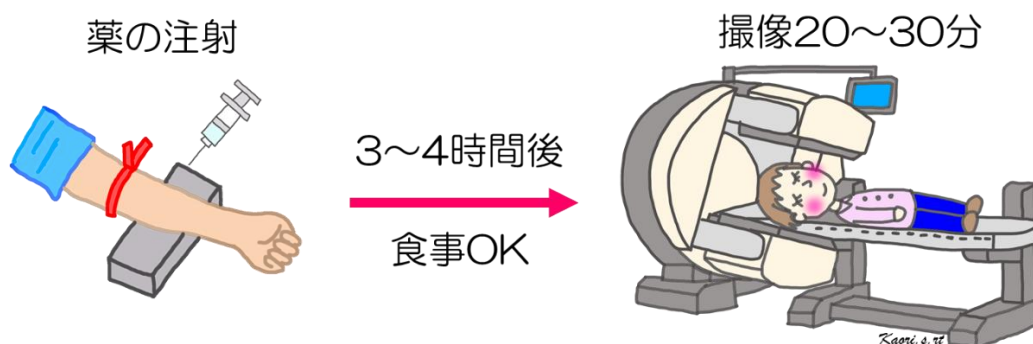


骨シンチグラフィ（放射性医薬品： ^{99m}Tc -MDP/HMDP）

骨シンチグラフィで使用する薬は、 ^{99m}Tc （テクネチウム）というアイソトープをリン酸化合物に標識し、骨の代謝や反応が盛んなところに集まる特徴があります。この性質を利用して、骨腫瘍や骨の炎症、骨折の診断が可能です。特に乳がん、肺がん、前立腺がんなど、各種のがんの治療前や治療後の経過をみる上で欠かせません。がんが骨に転移しているかどうかは、がんの治療を進めていくうえで重要な情報となります。X線検査よりも早期に、しかも患者さんの苦痛も少なく骨の異常を見つけられます。また X 線検査では診断が困難なスポーツ選手の疲労骨折や、骨粗しょう症に伴う骨折の診断でも、骨シンチでの検出が可能です。

◎検査の流れ

薬の注射を行い、薬が全身に浸透した注射から 3～4 時間後に撮像を行います。当院では、午前中に注射、午後に撮像の予定で予約をお取りしています。（場合により変更あり）
撮影時間は 20～30 分程度です。撮像中は、仰向けの状態で動かずに寝て頂きます。仰向けが難しい場合は、検査が出来ないことがあります。予め主治医にご相談ください。また、装置と装置で体を挟む形で寝るため、閉所恐怖症の方はご注意ください。

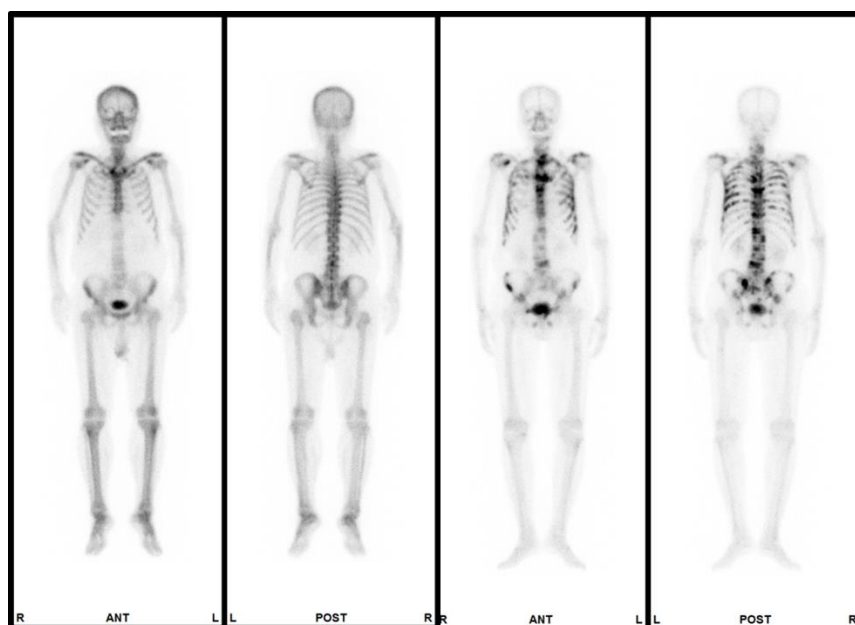


注射後、撮像までの 3～4 時間は特に食事の制限等はありません。同日に別の検査で制限がある場合は、そちらに合わせてください。

また、投与された薬は徐々に尿となって膀胱に溜まり、排泄されます。膀胱に溜まった状態で撮像すると、周りの骨の状態が分かりにくくなってしまいます。

検査直前にトイレのご案内をしますので、排尿のご協力をお願いします。

◎骨シンチグラフィ画像のご紹介



正常

**前立腺癌
多発骨転移**

正常画像では、全身の骨がムラなく描出されているのが分かります。それに比べて、多発骨転移画像では、肋骨や脊椎・骨盤などに黒く集積があるのが分かります。これは、骨転移している病巣部分に、放射性医薬品が集まり画像として見えています。